

## ■1. 17 丸30年

ちょうど1年前、東遊園地（神戸市）で行われた「1. 17のつどい」に参加しました。たまたま、私の横の年輩の方がメディアのインタビューを受けられました。その中で、「……私は29年前の阪神・淡路大震災で、妻と娘をなくしました。自分の中では、そのときからずっと時間が止まっていて、新たな一歩を踏み出すことができませんでした。しかし、このお正月に起きた能登半島地震で被災された人々に頑張ってもらうためには、まずは私自身が止まっている時計を動かさないといけないと感じ、29年が経過して初めて、勇気を振り絞って、このつどいにやって来ました。……」と涙を浮かべながら、話をされました。聞いていた私も涙があふれそうになりました。

30年前のこの日、豊岡は雪が降り続いていました。大きな、そしていつになく長い揺れで目を覚ました私は、屋根から雪が滑り落ちたのかなと思っていました。本棚から少しばかりの本も落ちてきたので、「地震かあ。結構大きかったなあ。」これくらいの思いでしかいませんでした。

当時は和田山町立（現・朝来市立）糸井小学校に勤めていたので、雪道の中を車で走り出しました。いつもはKissFMという神戸に放送局があるラジオ番組を聞きながら運転するのですが、なぜか「ザーザー」という音しか聞こえてきませんでした。車のアンテナに雪でもついているのかなあと考えていました。

そして、学校に到着し、そこで他の先生方と一緒にテレビを見て初めて、事の大変さを知りました。神戸の街が崩れ、燃え上がり、死者の数もどんどんと増えていくのです。

この阪神・淡路大震災では6434人もの尊い命が失われました。

台風23号より多いとか、東日本大震災より少ないとか、私たちはついつい死者の大小で、その被害の大きさを比較しがちです。

しかしながら、死者がたとえ一人であっても、それは大変な大変な出来事です。というのも、なくなってしまったのはその人の命だけではないからです。

その人が描いていた未来や希望、夢も失われてしまいます。同時に、愛する人や家族からも切り離されてしまいます。所属していたさまざまなコミュニティからも切断されてしまいます。

その人の命に加えて、実にたくさんのものが一瞬にして失われてしまうのです。だからこそ、「命は地球よりも重い」と言うのかもしれない。

改めて、この日を命について考える機会とし、♪しあわせ 運べるように♪の歌詞にある「……今を大切に 生きてゆこう……」を実践していきたいものです。

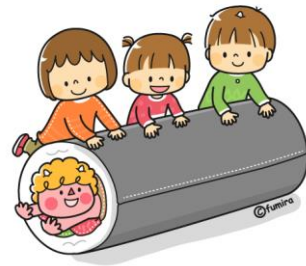


（校長 山本 考一）

裏面に続く

●○○ 2月の行事予定 ○●○

- 3日（月） 安全の日  
あすこそ週間【～9日（日）】
- 4日（火） モンゴル館出前授業（2年）
- 5日（水） 全校集会・児童集会
- 6日（木） スキー教室予備日（5・6年）
- 7日（金） クラブ活動（4・5・6年）、クラブ活動見学（3年）
- 8日（土） 授業参観（2・3校時） ※14時 一斉下校  
お弁当の日
- 10日（月） 振替休業日
- 11日（火） 建国記念の日
- 12日（水） 植村直己冒険賞記者発表（5年が参加）
- 17日（月） 安全の日  
演劇ワークショップ（1年）
- 19日（水） 読み聞かせ
- 23日（日） 天皇誕生日
- 24日（月） 振替休日
- 28日（金） 委員会活動（5・6年）



\*毎週木曜日を定時退勤日とし、教職員は18時までには退勤します。ご理解・ご協力を  
よろしくお願いします。

インフルエンザが大流行しています。学校においても、手洗い・うがいの励行に努めていま  
すが、ご家庭においても、「たっぷり睡眠・しっかり朝食」等の規則正しい生活習慣の確立によ  
り、お子さんの体調管理を今一度よろしくお願いします。



校長ブログ：府中っ子の学校での様子をお伝えします。（パスワード：

学校教育目標「自分を伸ばす みんなで高め合う 府中っ子～頭に、心に、体に汗いっぱい～」